

飛騨牛販路、タイで拡大

県が百貨店に指導員派遣

タイ国内で飛騨牛の販路を広げようと、県は今年、タイの小売業最大手セントラルフードリテール社が経営するバンコク市内の百貨店にJ A全農岐阜の職員1人を派遣した。タイの百貨店で飛騨牛を取り扱うのは初めてで、陳列方法などを指導した。

同社は、ショッピング

今回は、J A全農岐阜畜産販売課の坂井貴

ゲモールや百貨店などを経営するタイ最大級のセントラルグループの小売業部門。県と同社は昨年9月、人事交流に関する覚書を結んでおり、今年2月には同社バイヤーを県内に招へいして飛騨牛や農産物の生産現場を視察している。



精肉売り場で、飛騨牛のディスプレイ方法を指導する坂井貴行さん(左)＝タイ・バンコク市内(県提供)

に店頭で、サシ(脂)が見えるような陳列方法を提案した。精肉売り場の責任者は「飛騨牛の優れている点や生産状況、調理方法を知り、客へのPRも積極的にできる」とコメント。坂井さんは「飛騨牛の強みを伝えられた。販売拡大の可能性を感じた」と話

した。
県によると、タイへの飛騨牛の輸出量は増加傾向にあり、2012年の約240トから15年には約3900トまで増えている。
(河合修)